

未来投資会議 構造改革徹底推進会合  
「地域経済・インフラ」（中小企業・観光・スポーツ・文化等）

## アートを中心とした「文化」政策に関する意見

2018/02/19

御立 尚資

### 1 文化に関する「国家戦略」構築の重要性

- 文化は、国民の「心」を豊かにするのみならず、数多くの正の外部性を有する
  - ソフトパワー（外交・安全保障）、国と地域の経済成長（観光、変革の起爆剤、交流・定住人口増、アートビジネス）、国民の誇り・プライド醸成
- いくつもの先進国・中進国では、この観点から国家文化戦略が立案され、それに従い、多方面の政策連携を通じて、国としての価値増大を図ってきている
  - 国としての価値増大につながる税制を通じた文化促進
  - 自国文化のマーケティング、留学政策、アカデミア支援、等を通じて、自国文化の理解者を増やし、アート作品等の市場価値を向上
  - 上記のような諸施策と観光政策、地域経済政策との連携
- 翻って、わが国においては、文化芸術基本法が制定され、文化そのものの振興という観点、国と地域の関与、が図られ始めているが、「外部性」をも視野にいたれた統合的戦略は存在せず、観光、教育、税制等、広い分野の連携を通じた国家価値の増大につながっていないのが現状と思われる
- 過去の観光政策が「観光立国推進」という政府をあげての統合政策になることで、インバウンド等の大きな成果をあげてきたように、文化領域についても同様の省庁横断、国家的視点でのビジョン、政策、法的・予算的措置が、国家間文化競争上不可欠である

## 2 すでにわが国に存在する「ストック」の活用

- 7兆円近い世界のアート市場は、その大部分を米国、中国、英国が占め、わが国は2400億円程度に過ぎないという指摘がなされている。しかしながら、これは「フロー」かつ「市場がある場」を示しているものであるに過ぎない
- 美術分野についていえば、縄文時代以降、高い美術的価値を持つ作品が、膨大な量、制作され、多くのものが国内にストックとして存在している。この徹底的な活用が、これからのわが国の文化戦略にとって、もっとも重要なファーストステップとなりえる
- そのためには、下記の3点が必要となる
  - ストックの見える化（公的・私的美術館、企業、家計等、どこに何がどれだけあるかのデータベース化）
  - ストック価値の適正な評価を可能とする仕組み作り
  - ストックの流動を促す政策
- この観点から、この3点について、外部性をも考慮した形で政策立案・実行を行っていく必要がある。特にその第一歩として、「見える化」の具体策を早急に立案していくことが喫緊の課題であると考え